



信州大学医学部歯科口腔外科教授
栗田 浩先生

1.演題名：集団健診における唾液検査の有用性

2.抄録：

われわれ信州大学では、長野県の塩尻市および安曇野市で行っている国保特定健診に併せて歯科健診を行っている。本報告では唾液検査を用いた歯周病健診の可能性、有用性に関して報告する。

(1) 唾液検査の精度：歯周炎の診断に関しては、唾液中の潜血を測定する方法が最も精度が高かった（SMT 潜血：感度 63.5~65.6%、特異度 53.6~60.0%、精度 59.5~61.6%、ペリオスクリーン：感度 73.1%、特異度 40.0%、精度 56.4%）。感度が最も高い検査は唾液中のアンモニア検査（83.1%~83.5%）であった。唾液を用いた方法により精度 60%ほどで歯周炎のスクリーニングが可能であった。

(2) 唾液検査結果と特定健診結果との関連：横断的な検討では、唾液検査結果（潜血、タンパク質、アンモニア）と特定健診結果の多くの項目間で有意な関連が示された。縦断的な検討においては、潜血検査と血圧因子の変化との間に有意な関連が認められた。

(3) 市民の受け入れ：アンケート調査結果から、受けないと回答した率は 3~4%程度と低く、健診者の唾液検査の受け入れは良好であった。

(4) 唾液検査のコスト分析および費用対効果：一人あたりの健診にかかるコストは歯科医師による歯科健診で 1,262~1,695 円。唾液検査（ペリオスクリーン検査）で 483~633 円であった。唾液検査費用は人件費に大きく左右される（歯科医師による判定が必要）が、人件費を除けばコストは大幅に抑えられる（150 円ほど）。唾液検査結果と医療費との関連を検討したところ、両者間には有意な関連が認められ、唾液検査結果が良好な者では医療費は低かった。

3.略歴：

- 1987年3月 新潟大学歯学部歯学科卒業
- 1987年6月 信州大学医学部附属病院 医員
- 1995年4月 信州大学医学部附属病院 助手
- 1996年11月 医学博士・博士（医学）[信州大学]
- 1997年4月 信州大学医学部附属病院 講師
- 1997年10月 文部省在外研究員 スウェーデン カロリンスカ大学歯学部
- 2001年6月 信州大学医学部 准教授
- 2011年7月～ 信州大学医学部 教授
- 2020年4月 信州大学医学部附属病院 副病院長（～2023年3月）